

一 かっぽれ

「かっぽれ かっぽれ ヨーイトナ ヨイヨイ」と威勢のいい掛け声から始まる人気曲です。江戸時代の願人坊主の大道芸や大阪の住吉踊りが発祥と諸説あります。明治になり、お座敷芸として流行り、今でもたくさんの愛好家がいます。江戸湾に紀伊国からみかん船が着いたぞーと喜ぶという、今ではなかなかないどかな江戸の風景をお楽しみ下さい。

二 神庭作り～古代作庭法実演～

平安時代に著された「作庭記」以降、日本の古代の庭園の作り方には、神庭(こうにわ)という神靈の依代という側面がありました。能の舞台背景に描かれる松も、常磐木として象られたものです。その神庭作りの際、もともとはどんな考え方と身構えであったのかを探っていくなかで見出した方法のひとつを、模型を使って実演します。ここで作られた模型が「翁嫗」の舞う神庭となります。もともと舞や俳優(ワザオギ)とは、身体そのものが神靈の依代となる呪術であったと言われていますが、その源流に遡る流れを象ってみたいと思います。

三 翁嫗～舞の源流に立つ～

世阿弥作の能「高砂」に登場する翁嫗は、高砂の浦で境内を掃き淨めている老夫婦ですが、実は住吉明神の化身でもある設定となっています。白砂の松を掃き、和歌を詠み、穏やかに暮らすこの老夫婦には神性が宿り、今でも祝儀曲として謡い継がれています。その翁嫗の神性に至る営みを舞と音楽で象っていきます。

二豊志津

幼少時より、日本舞踊、ダンス、フラ、祭祀舞、上方舞と多様な舞踊を伝習。私立中高で英語教員を勤め、その後独自に古典舞踊の探究と創作を始める。2019年より二豊会主宰。2023年2025年邦楽邦舞交流会「和の輪」を開催。2024年12月「四方の会」～汲む～を主催。温故知新と生涯学習教育を結びつけながら、舞踊と英語学習を両輪にして活動している。

香春（かわら）

環境再生医、庭師、舞踊家。さまざまな講座やワークショップを通して、自然と人の新しい関係構築を探求し「環境再生芸術」を提案している。昨年からは、華厳經の宇宙観を、身体ワークショップと音楽と舞で体感していくシリーズ「華厳の花」を継続中。

kankyouaisei.jimdofree.com

木村俊介

和楽器奏者（笛・三味線他）として活動する一方、演劇や舞踊等、様々な舞台作品において作曲・音楽監督を担当。自主公演では、国内外からの多彩なゲストと共に、文学・絵画などをモチーフとした斬新かつ独創的な作品を発表し続けている。海外での活動も多く、これまでに世界5大陸35カ国の音楽祭にて招聘演奏。2020年より、エッセーとCDによる会員制季刊誌『音之文』（オトシブミ）を発行。
<https://insho.kmlw.net/>

4歳より生田流箏曲を学ぶ。CD「遠くの雨」「あおのむこう」「つゆくさ」等。オリジナル曲を中心としたコンサート活動をする他、NHKスペシャル「大地の子を育てて」（2005年日本賞グランプリ受賞番組）を始めとするTV、ラジオ番組等の音楽制作参加や出演、小椋佳やヤドランカのコンサートツアーや、浅野温子読み語り公演への参加、演劇・朗読・舞踊とのコラボレーションなど、個性的で心地よい音づくりを追求し、邦楽器の為の作曲・編曲も多数。H.24年度宮城道雄記念コンクール作曲部門第一位。
<https://inaba.kmlw.net/>